

千葉県八千代市

# ヲイノ作南遺跡 b 地点発掘調査報告書

－ 集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 －



2008

オリックス・リアルエステート株式会社  
八千代市遺跡調査会

## 序 文

八千代市は、「住宅団地発祥の地」として知られており、昭和30年代初頭における八千代台地区の町づくりを契機として住宅団地の造成が進み、首都30km圏に位置する住宅都市として成長を続けてまいりました。昭和60年代以降は、市域北部および東部における大学と住宅地のセット開発が行われ、文教都市としての側面も併せ持つようになっております。

また、京成電鉄成田線に加えて平成8年4月には東葉高速鉄道が開業したことにより、都心へのアクセスもさらに便利となり、沿線を中心とした新しいまちづくりが進んでおります。ことに八千代緑が丘駅周辺は、高層マンションが建ち並び、今や八千代市の顔であると申し上げましても、過言ではありません。このように、本市は県内の中堅都市として、現在も発展し続けております。

このような状況のもと、八千代市遺跡調査会では、市内で行われる個人や民間企業の開発行為、土地区画整理事業などに先行する埋蔵文化財発掘調査に従事してまいりました。

本報告書に掲載した調査は、市域の西部に当たる大和田新田地区において計画された、集合住宅建設に先立つものです。この事業地につきましては、平成18年度に埋蔵文化財についての照会があり、八千代市遺跡調査会が本調査を実施してまいりました。

八千代市西部は、縄文時代を中心とする遺跡が濃密に分布しているエリアで、東葉高速鉄道八千代緑が丘駅周辺の土地区画整理事業に先立つ発掘調査におきましては、貴重な成果を得ております。

ヲイノ作南遺跡は、今回報告するb地点をはじめ、a地点からc地点にわたる数次の発掘調査が行われ、縄文時代を主に豊富な内容をもつ遺跡であることが判明いたしました。

b地点ではa地点から延々と連なる、奈良・平安時代の溝が検出され、律令体制における当地域の土地活用や、土地利用のあり方を考えてゆく上での良好な資料となりました。

今回の調査により、八千代市域における奈良・平安時代の遺跡のあり方、あるいはその歴史的な背景を語るためには、欠くことのできない基礎資料を得ることができました。

本報告書が学術資料としてはもとより、教育資料として、郷土の歴史に興味をお持ちの皆様が大いに活用されれば幸いです。また、このことにより、地域の文化財保護についての関心を高めることとなりますことを願ってやみません。

最後になりましたが、調査の実施にあたり多大なご協力をいただいた事業者の皆様をはじめ、調査から整理までに種々ご指導をいただいた皆様に深く感謝いたします。また、調査や整理に従事された調査員、補助員の方々にも深く御礼申し上げます。

平成20年6月00日

八千代市遺跡調査会  
会長 加賀谷 孝

## 凡 例

1. 本書は、千葉県八千代市大和田新田に所在するにライノ南遺跡の、平成18年度に実施された発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、集合住宅建設に先立つもので、業者であるオリックス・リアルエステート株式会社の委託を受け、八千代市教育委員会の指導のもと、八千代市遺跡調査会が実施した。
3. 調査及び整理は以下のように実施した。

調査期間 平成18年11月30日～平成18年12月28日（本調査）  
調査面積 986 m<sup>2</sup>  
整理期間 平成20年4月1日～平成20年6月10日（本整理）
4. 本調査は森 竜哉、本整理については中野修秀が担当した。
5. 本書の図版作成は、中野修秀、野中則子、山下千代子が行った。編集・執筆は中野が担当した。ただし、第1章第1節は森 竜哉が執筆した。

全ての原稿執筆後、朝比奈竹男が加筆・補正を行った。
6. 出土した遺物・写真・図面等の調査資料は、八千代市教育委員会が保管している。
7. 挿図の第1図の地形図は、八千代市発行の25,000分の1八千代市都市計画基本図を使用した。
8. 挿図の第2図の地形図は、八千代市発行の2,500分の1八千代市都市計画基本図を使用した。
9. 遺構Noは、調査順の数字で表記した。遺構の内容や時期が異なる場合も、調査時点のNoを使用して  
いる。

ただし、本書は「P〇〇」というように、大同小異ではあるが、遺構を示すアルファベット表記を先頭にもってきている。例外は溝で、a地点報告書における呼称を踏襲して「0 1 M」と記載し、極力混乱は回避する方策を採った。  
今回は、本調査の時点から「0 1 M」を2本に分離して扱っていたため、両者を分けて報告する。
10. 各実測図の縮尺については、原則として下記のとおりである。これ以外は、適宜挿図中に示した。

陥穴及び土坑 1 / 40      溝 1 / 200
11. 遺物実測図中のスクリーン・トーンは、特に指摘が無い場合は、以下のとおりである。

■ 繊維土器      ● 胎土に雲母粒子を含むもの
12. 「おとしあな」は、「陥穴」と表記することにし、「落とし穴」の用語は用いなかった。
13. 発掘調査から整理作業の間において、以下の諸氏・諸機関にご指導・ご協力をいただきました。記  
して感謝いたします。

千葉県教育庁文化財課      八千代市教育委員会      植田正子      長田京子      見神光恵  
玉井庸弘

# 目 次

序 文  
凡 例  
目 次  
挿図目次

第 1 章 調査経過及び概要	1
第 1 節 調査に至る経緯	1
第 2 節 調査の方法と経過	1
第 3 節 遺跡の位置と周辺の地理的・歴史的環境	3
第 4 節 ヲイノ作南遺跡の調査履歴	5
第 2 章 検出された遺構と遺物	6
第 1 節 縄文時代	6
(1) 陥穴	6
(2) ピット	7
(3) ピット出土遺物	10
(4) 調査区出土遺物	10
第 2 節 奈良・平安時代	10
(1) 溝	10
第 3 章 成果と課題	13
第 1 節 縄文時代の様相	13
第 2 節 奈良・平安時代の様相	13
報告書抄録及び概要	15



# 第1章 調査経過及び概要

## 1. 調査にいたる経緯

平成18年5月、八千代市大和田新田字ヲイノ作911番1の土地について安原一雄氏（以下、「事業者」という）から共同住宅建設に伴い、「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が八千代市教育委員会（以下、「市教委」という）に提出された。照会地は市遺跡No.276ヲイノ作南遺跡の範囲内であり、平成6年10月に事業者から今回照会地を含む24,931㎡について既に照会があり、遺跡が所在する旨を回答している。更には同地点の確認調査を平成6年度<sup>1)</sup>、7年度<sup>2)</sup>に、一部本調査を平成8年度<sup>3)</sup>に実施し、縄文時代の竪穴住居跡・陥穴、歴史時代の溝が検出された。この点を考慮し、遺跡が所在する旨を回答し、取扱いにかかる協議を行った。その結果、事業者が当初の計画を進めたい旨を確認し、本調査未実施部分986㎡について記録保存の措置として調査を実施することとなった。この間に事業者がオリックス・リアルエステート株式会社に変更となったが、同社から平成18年8月、文化財保護法第93条第1項の規定による土木工事の発掘届が提出された。調査は市教委、八千代市遺跡調査会、事業者の三者による協定後、八千代市遺跡調査会と事業者による委託契約が締結され、諸準備が整った平成18年11月、調査に着手した。

### 注

- 1) 八千代市教育委員会 1995『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告 平成6年度』
- 2) 八千代市教育委員会 1996『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告 平成7年度』
- 3) 八千代市遺跡調査会 2000『千葉県八千代市ヲイノ作南遺跡発掘調査報告書』

## 2. 調査の方法と経過

調査は、平成6・7年度の確認調査において遺構を検出した部分と、その周囲を拡張する形で行った。基本層序は、上からⅠ層（表土）・Ⅱa層（黒色土）・Ⅱb層（褐色土・新期テフラ）・Ⅱc層（暗褐色土）・Ⅲ層（立川ローム。いわゆるソフトローム）となっている。

表土除去は発掘調査工程の迅速化を最優先課題としたため、重機を用いた。遺構検出面は原則としてⅢ層上面である。例外はA区北西部で、Ⅱb層までを重機で除去後、遺物包含層の調査を行った。

表土除去後、人力による遺構確認作業を行った。この後全ての遺構の精査及び掘り下げは、人力によるものである。

遺構の土層断面図・エレベーション図は、現地で水糸を張り、手実測で作成した。遺構平面図の作成及び遺物の取り上げに関しては、トータル・ステーションを用いた。

検出遺構などの写真撮影は、モノクロフィルム・カラー・リバーサルフィルムともに、35mmを使用している。

平成18年11月30日より、バックホーによる表土除去を開始し、12月4日に終了した。

12月5日より機材を搬入する。同日調査補助員を投入し、遺構確認作業に着手する。そして、遺構を確認後、ただちに遺構調査を開始する。この後、順次諸作業を行った。

平成18年12月23日に現地調査を終了した。

12月27日より、バックホーによる埋め戻し作業にかかる。また、同日中に発掘機材などの撤収・搬出を完了する。

平成18年12月28日に、埋め戻し作業完了、ここに全ての野外作業が終了した。





第1図 周辺の奈良・平安時代遺跡

- |             |           |           |           |           |
|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 ライノ作南遺跡   | 9 麦丸宮前上遺跡 | 17 川崎山遺跡  | 25 西芝山遺跡  | 33 マロウ遺跡  |
| 2 仲ノ台遺跡     | 10 権現後遺跡  | 18 北裏畑遺跡  | 26 八王子台遺跡 | 34 大東台遺跡  |
| 3 内野南遺跡     | 11 ヲサル山遺跡 | 19 内山遺跡   | 27 東向遺跡   | 35 桑橋新田遺跡 |
| 4 大和田新田芝山遺跡 | 12 北海道遺跡  | 20 高津新山遺跡 | 28 大作遺跡   | 36 桑納遺跡   |
| 5 吉橋芝山遺跡    | 13 坊山遺跡   | 21 西内野遺跡  | 29 背戸遺跡   | 37 桑納前畑遺跡 |
| 6 平作遺跡      | 14 井戸向遺跡  | 22 妙見前遺跡  | 30 瓜作遺跡   | 38 作ヶ谷津遺跡 |
| 7 新田台遺跡     | 15 白幡前遺跡  | 23 吉野那幾遺跡 | 31 サゴテ遺跡  |           |
| 8 麦丸遺跡      | 16 向山遺跡   | 24 吉橋新山遺跡 | 32 本郷台遺跡  |           |



### 3. 周辺の地理的・歴史的環境

周辺の地理的・歴史的環境に関しては、「西内野遺跡発掘調査報告書」・「内野南遺跡 d 地点発掘調査報告書」などで記述されている（森・中野 2007・2008）ため、詳細はそちらに譲ることにする。内容的に重複する部分があることに関しては、御寛恕を乞いたい。

ヲイノ作南遺跡は、巨視的に見れば新川（平戸川）と桑納川の分水嶺に相当する、標高約 26 m 前後の台地（仮称 麦丸台）に位置する。

この麦丸台は、西端は坪井川谷まで、南端は高津川谷までである。やや微視的に見た場合、桑納川谷と新川谷へ向かう形で開析谷が発達しており、いくつかの舌状台地（支台）が形成された。

その内の一つ、先端に尾崎館跡をのせる支台（仮称 尾崎支台）基部に、本遺跡は遺されている。そして、微地形的に見ると、本遺跡・ヲイノ作遺跡及び仲ノ台遺跡をのせる台地自体が、半島状の一つの小支台をなしており、各々ヲイノ作南小支台・ヲイノ作小支台・仲ノ台小支台と仮称しておく。このうち、最も面積の大きなものが仲ノ台小支台で、花輪谷津の最奥部に突出しており、花輪川の分水嶺よりしく、尾崎支台と吉橋支台とを分けている。

尾崎支台は、西側は花輪谷津（花輪川谷）、東側は支谷（仮称 津金支谷）によって開析された半島状の舌状台地で、広大な面積を有する尾崎館跡から仮に命名した。台地の基部付近一帯は宅地化が進み、元地形はわかりにくくなっているが、津金支谷側は小支谷の開析が発達している。

本支台は比較的調査のメスが多く入れられていて、特に東葉高速鉄道敷設に先立つ調査や、本遺跡を含む西八千代遺跡群の調査などで、多くの事実が判明した。

本遺跡・ヲイノ作遺跡・仲ノ台遺跡及び大和田新田芝山遺跡では、縄文前期前半黒浜式期から集落が営まれている。この遺跡群は、ほぼ径 500 m 圏内に収まる程に近接しており、集落が営まれる前段階では、陥穴群に見られるような、狩猟域になっていた点でも共通点がある。また、時まさに「縄文海進」のピークとはいえ、谷奥の遺跡群である。「経済水域」の問題に関しては、ヲイノ作南遺跡 19 D の遺構内堆積貝層から、古鬼怒湾の一小支湾である、古印旛湾（新川谷）へ出るのが順当と考えられているが、仮に「古東京湾」へ繰り出した場合も、あまり距離的に遠くはない。

尾崎支台からさらに支谷を挟み、東に支台（仮称 麦丸新田支台）が隣接する。この支台は半島状の大きな支台で、東端は須久茂谷津（支谷）の開析によって萱田支台と分かれる。これら麦丸新田支台から萱田支台にかけて、「萱田遺跡群（権現後遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡・ヲサル山遺跡・坊山遺跡・白幡前遺跡）」が展開しており、奈良・平安時代を中心とする大集落などが調査された。

第 1 図は奈良・平安時代の遺跡をドット化してみたものである。

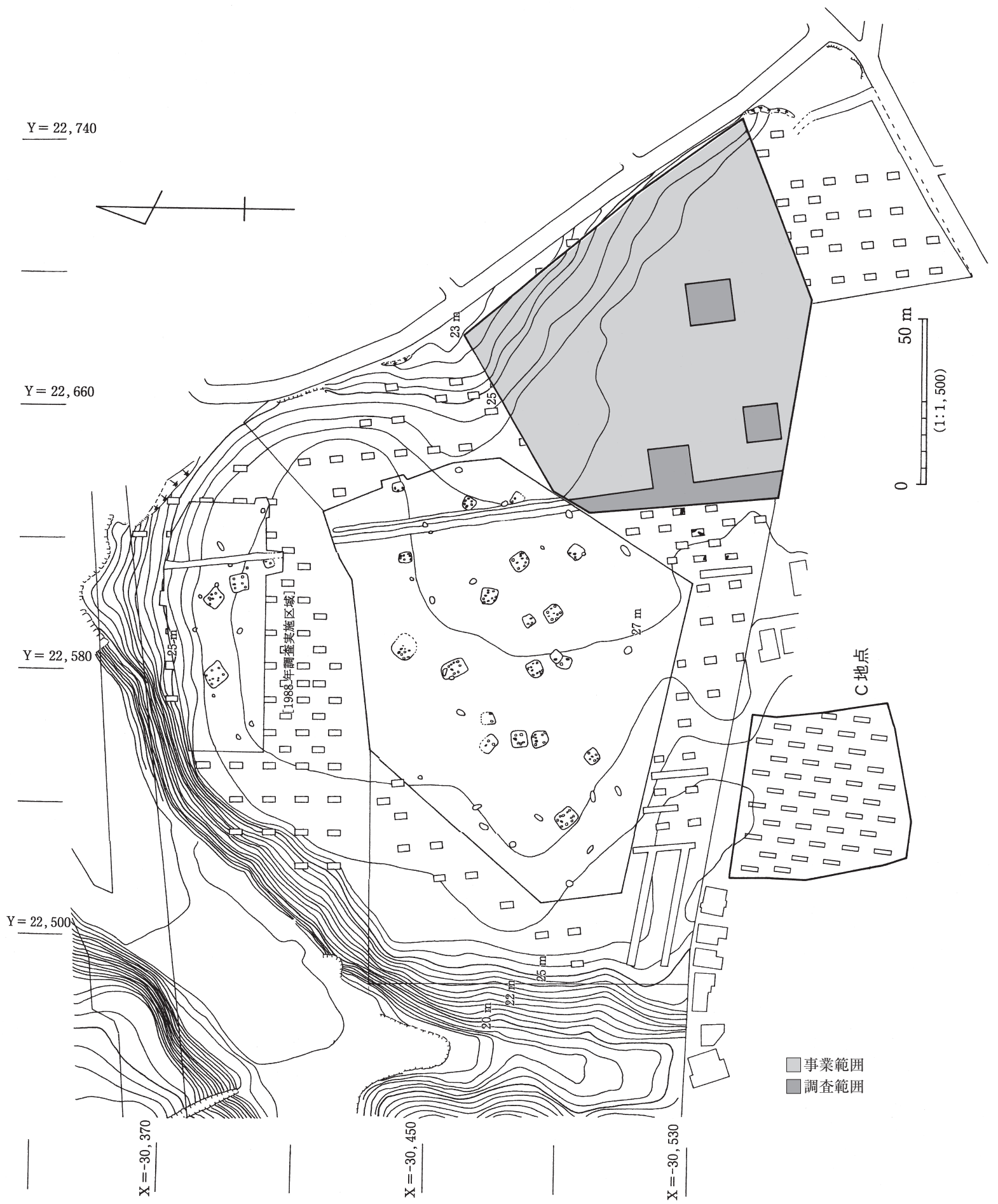
既に再三記述してきたように、本遺跡の周辺は「黒浜銀座」とでも呼べる程、縄文時代前期では活況を示している。しかしながら、遺跡とは、過去に生活した人々による、土地利用の履歴に他ならない。

事実、本遺跡では奈良・平安時代の溝が報告されており、仲ノ台遺跡・ヲイノ作遺跡・大和田新田芝山遺跡で平安時代の竪穴住居跡、隣の吉橋支台でも、内野南遺跡 a 地点で奈良時代の竪穴住居跡が検出されている。そこで、今回は比較的零細な痕跡しか残していない時期に注目することにした次第である。

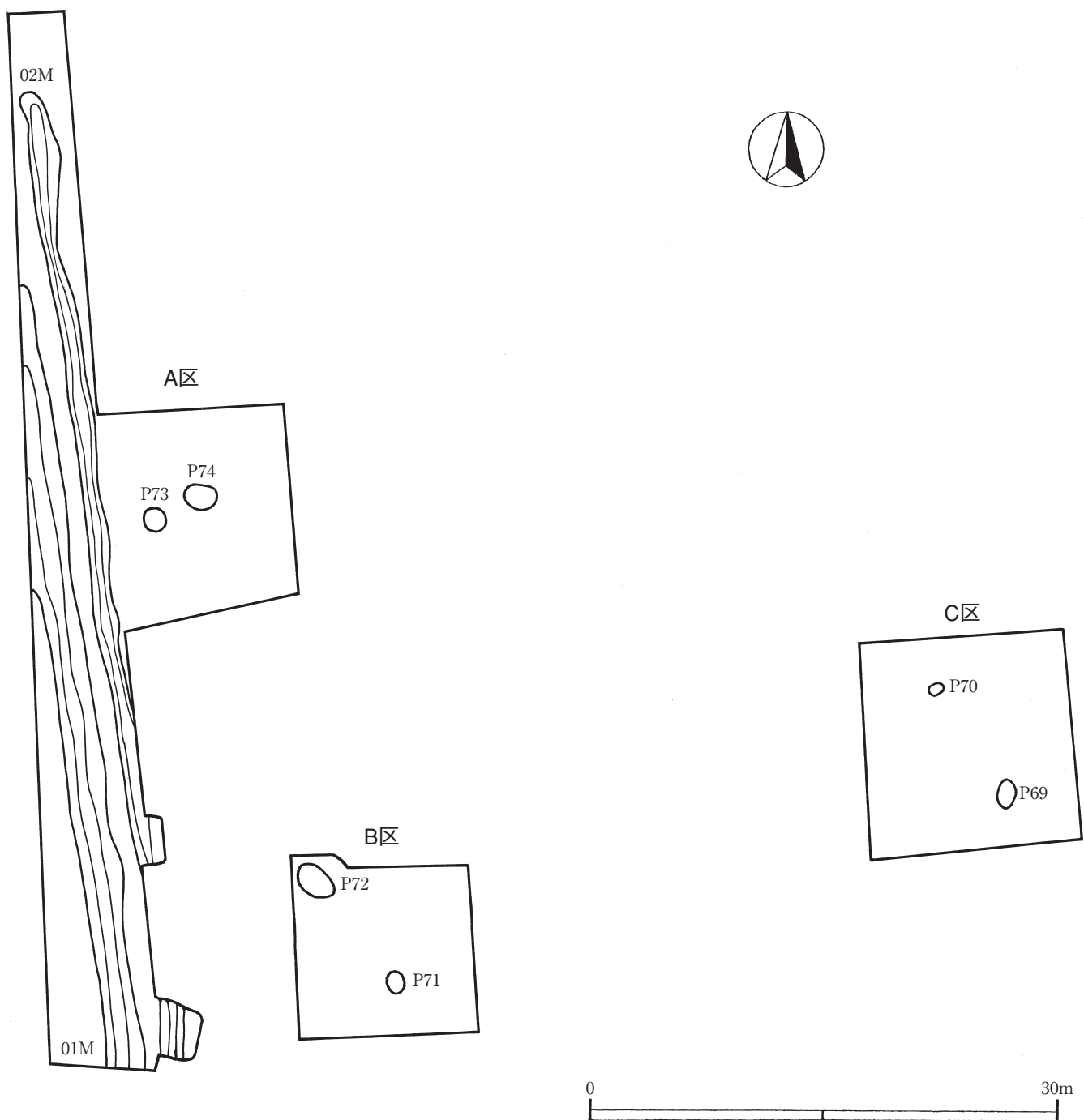
特徴として、高本支台と麦丸新田支台に挟まれた吉橋支台と尾崎支台では、遺跡の分布が比較的希薄と言える。特に尾崎支台は、吉橋芝山遺跡・平作遺跡と大和田新田芝山遺跡の 3 箇所のみである。

#### 参考文献

- 森 竜哉・中野修秀 2007 『千葉県八千代市西内野遺跡発掘調査報告書』 八千代市遺跡調査会  
森 竜哉・中野修秀 2008 『内野南遺跡 d 地点発掘調査報告書』 八千代市教育委員会



第2図 事業範囲及び調査範囲



第3図 遺構配置図 (S = 1 : 400)

#### 4. ワイノ作南遺跡の調査履歴

本遺跡は、過去数次にわたる確認及び本調査が実施された。今回が第3次本調査となる。

昭和62年度の確認調査は、昭和62年11月30日～同年12月3日まで実施した。

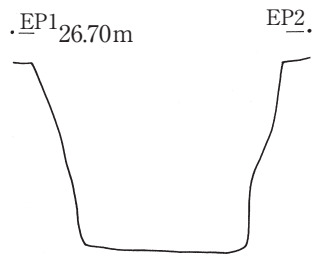
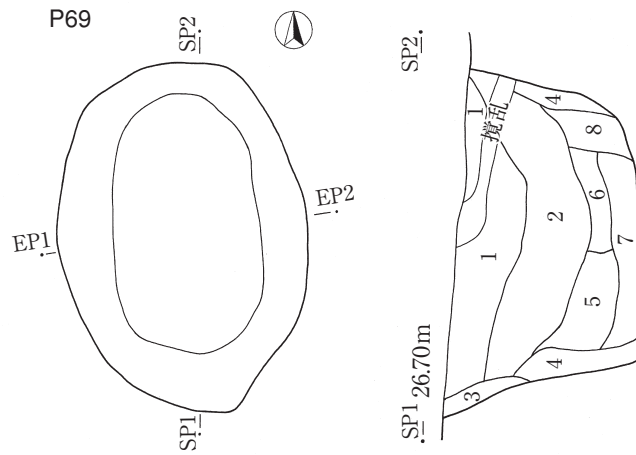
昭和63年度は本調査(第1次)を、昭和63年5月6日～同年6月18日まで実施した。調査面積は2000㎡。森 竜哉 1996 『千葉県八千代市仲ノ台遺跡・ワイノ作遺跡他発掘調査報告書』

平成6年度の確認調査(第1次)は、平成7年3月8日～同年3月28日まで実施した。

平成7年度の確認調査(第2次)は、平成7年11月10日～同年12月15日まで実施した。

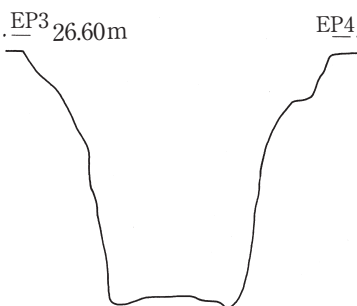
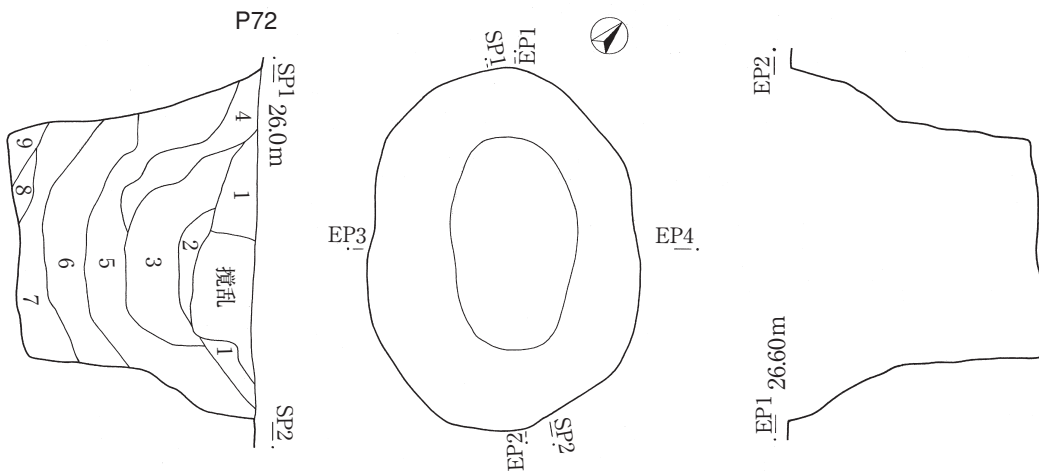
c地点は、確認調査を、平成8年6月27日～同年7月15日まで実施した。

a地点は、本調査(第2次)を、平成8年8月4日に開始し、同年12月19日に終了した。調査面積は8400㎡。森 竜哉・玉井庸弘 2000 『千葉県八千代市ワイノ作南遺跡発掘調査報告書』



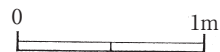
**P69 土層説明**

- 1 暗褐色土 ローム粒に黒色土少量含む。粘性あり、しまってる。
- 2 暗褐色土 1層類似。黒色土の割合多い。粘性あり、しまってる。
- 3 褐色土 ローム粒主に黒色土ごく少量含む。粘性あまりなくサラサラ。
- 4 褐色土 3層類似、ローム土主体。粘性あり、しまり普通。
- 5 褐色土 ロームに黒色土混入。粘性あり、しまりあり。
- 6 褐色土 ローム、黒色土混合土、粘性普通、しまりやや欠く。
- 7 褐色土 ローム土、ロームブロック混合土、粘性あり、しまりあり。
- 8 褐色土 ローム土、黒色土の混合土にローム混入。粘性普通、しまりやや欠く。



**P72 土層説明**

- 1 暗褐色土 黒色土にローム粒少量含む、粘性普通。しまってる。
- 2 黒褐色土 黒色土主にローム粒少量含む、粘性普通。サラサラしている。
- 3 暗褐色土 黒色土とローム混合土、粘性普通。非常にしまる。
- 4 暗褐色土 4層類似、ローム粒多い。
- 5 褐色土 ローム土粘性普通。非常にしまる。
- 6 褐色土 ローム土に径1.2cm大のロームブロック混合土。粘性やや欠き、しまり欠く。
- 7 暗褐色土 ローム土に黒色土の混合土。粘性やや欠き、しまり欠く。
- 8 褐色土 ほぼロームブロックからなる。
- 9 暗褐色土 炭化物主体、ローム粒少量含む。ややほそほそ。



第4図 陥穴実測図

## 第2章 検出された遺構と遺物

### 1 縄文時代

今回の調査で陥穴3基、ピット3基が検出された。これらは、A区～C区にかけて万遍なく分布し、偏在や集中は認められない。

#### (1) 陥穴 (第4・5図)

##### P 69 (第4図)

**位置** C区。 **重複関係** 単独。**長軸** ほぼ北一南。 **平面形** 上部、底部とも楕円形を呈する。 **壁・底面** 壁は垂直気味であるが、中段付近より上はややゆるやかに立ち上がる。底面は凹凸を有する。 **底部施設** 検出されなかった。 **規模** 上部で1.90m×1.37m、底部で1.40m×0.81m、検出面からの深さ1.04mを測る(Ⅱc層から掘り込まれている)。 **覆土** 7層に分層できた。 **出土遺物** 出土しなかった。

##### P 72 (第4図)

**位置** B区。 **重複関係** 単独。**長軸** ほぼ北東一南西。 **平面形** 上部、底部とも楕円形を呈する。 **壁・底面** 壁は垂直気味であるが、中段付近より上はややゆるやかに立ち上がる。底面は凹凸を有し、中央部分一帯がやや盛り上がる(深度自体は浅くなる)。 **底部施設** 検出されなかった。 **規模** 上部で1.96m×1.15m、底部で1.47m×0.69m、検出面からの深さは1.34mを測る。 **覆土** 10層に分層できた。 **出土遺物** 出土しなかった。

##### P 74 (第5図)

**位置** A区。 **重複関係** 単独。**長軸** ほぼ東北東一西南西。 **平面形** 上部は楕円形、底部は不整な長方形を呈するか。 **壁・底面** 壁は垂直気味であるが、中段付近より上はややゆるやかに立ち上がる。底面は凹凸がやや目立つ。 **底部施設** 検出されなかった。 **規模** 上部で1.88m×1.38m、底部で1.09m×0.82m、検出面からの深さは2.01mを測る。 **覆土** 11層に分層でき、最下層の11層は炭化物を多量に含む。 **出土遺物** 覆土最上層から、縄文式土器4点。 **備考** 本跡は黒浜式期には埋没していた。

#### (2) ピット (第5図)

##### P 70 (第5図)

**位置** C区。 **重複関係** 単独。**長軸** ほぼ北一南。 **平面形** 上部、底部とも楕円形を呈する。 **壁・底面** 壁は垂直気味立ち上がり、底面は丸みを帯びる。 **規模** 0.63m×(0.47m)、検出面からの深さは0.39mを測る(Ⅱc層から掘り込まれている)。 **覆土** 4層に分層できた。 **出土遺物** 出土しなかった。 **備考** 本跡の短辺の規模が不明なのは、攪乱によるものである。

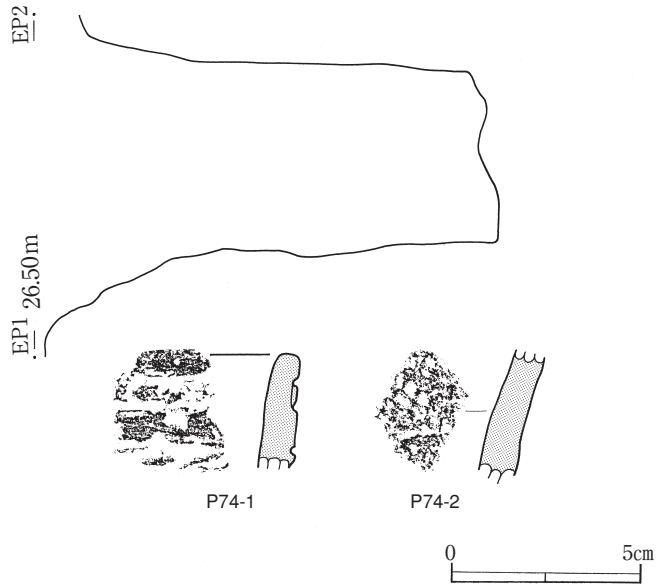
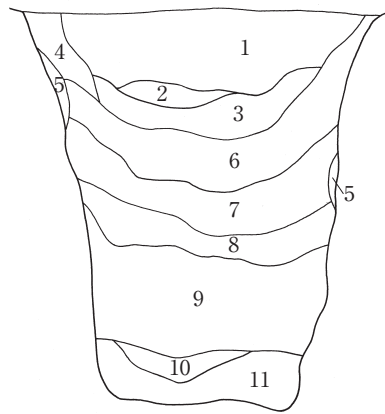
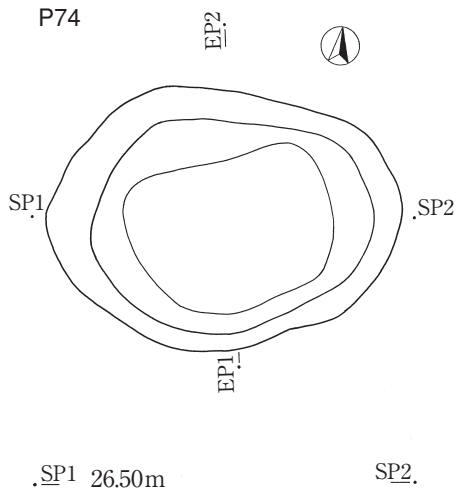
##### P 71 (第5図)

**位置** B区。 **重複関係** 単独。**長軸** ほぼ北一南。 **平面形** 上部、底部とも略円形を呈する。 **壁・底面** 壁はゆるやかに立ち上がり、底面は皿状を呈する。 **規模** 0.95m×(0.78m)、検出面からの深さは0.18mを測る。 **覆土** 2層に分層できた。 **出土遺物** 出土しなかった。

##### P 73 (第5図)

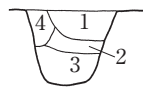
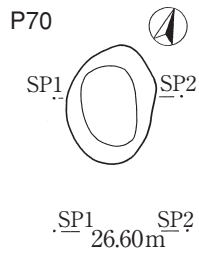
**位置** A区。 **重複関係** 単独。**長軸** ほぼ北一南。 **平面形** 上部、底部ともやや不整な円形を呈する。 **壁・底面** 壁はゆるやかに立ち上がり、底面は丸みを帯びる。 **規模** 1.13m×(0.67m)、検出面からの深さは0.06mを測る(Ⅱc層から掘り込まれている)。 **覆土** 3層に分層できた。 **出土遺物** 出土しなかった。 **備考** 本跡の短辺の規模が不明なのは、調査時に掘り過ぎてしまったことによる。





**P74 土層説明**

- 1 暗褐色土 ロームと黒色土の混合土。粘性、しまり非常に強い。
- 2 黒褐色土 粘性、しまり普通。
- 3 暗褐色土 黒色土とローム粒少量含む。粘性、しまり普通。
- 4 暗褐色土 3層類似だが、ローム粒やや多い。
- 5 褐色土 ローム土にロームブロック含む。
- 6 暗褐色土 ローム主体で、黒色土混入。粘性、しまり強い。
- 7 褐色土 ローム主体で、黒色土ごく少量含む。粘性、しまり強い。
- 8 暗褐色土 ローム主体で、黒色土を中量含む。粘性、しまり強い。
- 9 褐色土 ロームブロックとローム土の混合土。粘性、しまり非常に弱くボソボソ。
- 10 褐色土 ローム土。粘性、しまり強い。
- 11 暗褐色土 黒色土とローム土の混合土。粘性やや弱い。しまり非常に弱い。



**P70 土層説明**

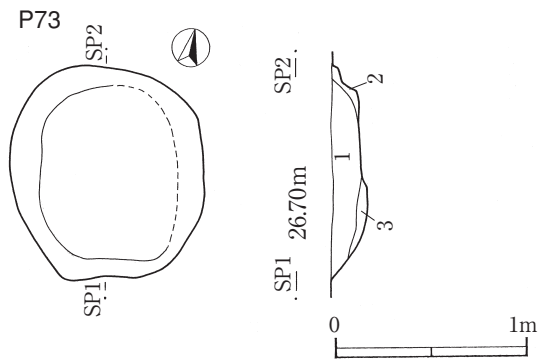
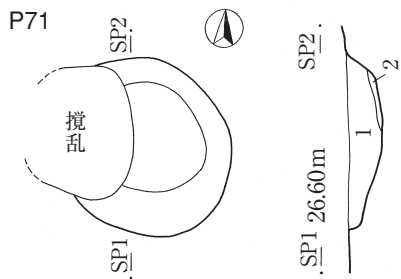
- 1 暗褐色土 ロームに黒色土混合。粘性普通。しまりあり。
- 2 暗褐色土 ロームに黒色土混合。黒色土やや多い。
- 3 暗褐色土 ロームに黒色土混合。ロームブロック含む。
- 4 褐色土 ローム土主体。

**P71 土層説明**

- 1 暗褐色土 ローム粒、黒色土混合。粘性しまり普通。
- 2 褐色土 ローム土主体。粘性、しまり普通。

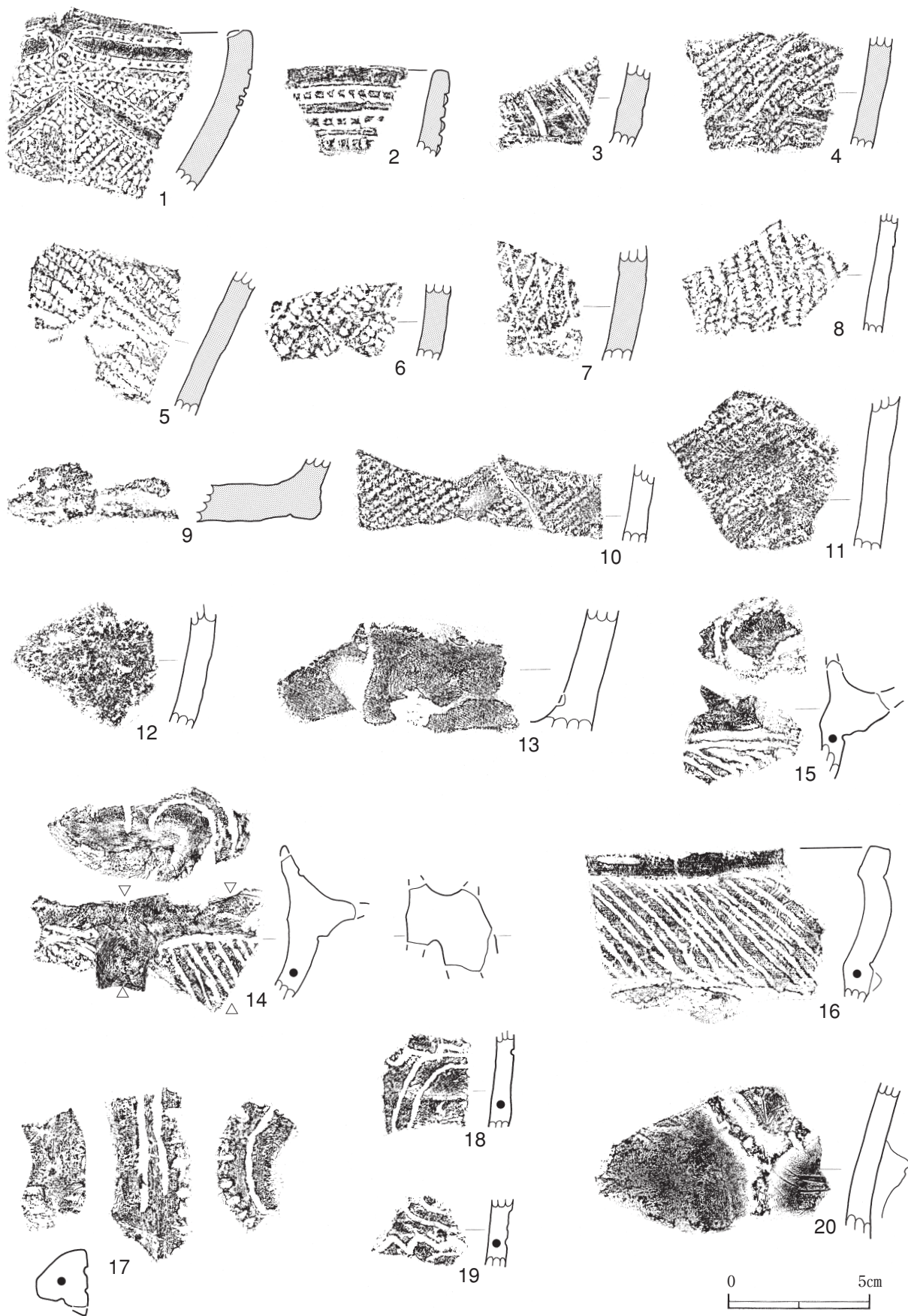
**P73 土層説明**

- 1 黒褐色土 粘性をやや欠く。しまり普通。
- 2 黒褐色土 ローム粒含む。粘性をやや欠く。しまり普通。
- 3 暗褐色土 黒色土少量含む。粘性あり、しまり普通。



第5図 陥穴・ピット実測図





第6図 調査区出土遺物

### (3) ピット出土遺物 (第5図)

P 74 1は口縁片。半截竹管を原体とした、平行爪形文を施す。2は地文縄文2段R Lの胴部片。

### (4) 調査区出土遺物 (第7図)

遺構外の遺物及び廃土の表面採集資料を含む。出土総数は、縄文式土器51点(黒浜式32、前期末葉～中期初頭の縄文系粗製土器1、阿玉台式18)、石1点。このうち、石は図化しなかった。

#### 縄文式土器

1～9は黒浜式土器。1～7・9の胎土には繊維を含有するが、8のみ含まない。1・2は口縁片で、1は附加条縄文を地文に、円形竹管による刺突を起点とし、爪形文を描線に用いて「組み合わせ鋸歯状文<sup>1)</sup>」を施す。2は爪形文を横位に重畳施文する。4～6は地文縄文の胴部片で、使用原体は附加条縄文。

胎土に繊維を含有しない8は、黒浜式の終末と解釈しておく(黒浜式全体で8点を数えた)。

1) 玉井庸弘ほか 2000 「千葉県八千代市 ヲイノ作南遺跡発掘調査報告書」 八千代市遺跡調査会

10～13は前期末葉～中期初頭の縄文系粗製土器。同一個体で、使用原体は2段R Lである。

近隣では、ヲイノ作遺跡09土坑出土土器群や、大和田新田芝山遺跡の遺物包含層出土土器群に良好な資料が見られる。村上台では、黒沢池上遺跡及び新林遺跡に見るべき資料が目立つ。

14～20は阿玉台式土器。20を除いて「雲母混入型」の胎土であるが、その含有の割合はごく少量、かつ細粒化されており、特徴的である。14は波頂部に耳状の突起を有し、そこから橋状把手が付く。15も波頂部に耳状の突起を付す。17は橋状把手。16は隆線で枠状区画文を構成し、単列の有節線文を沿わせ、区画内には斜位の有節線を多条化充填する。20は胴部片で、「Y字状隆線」を垂下するもので、隆線上にキザミを施す。これらは、諸属性から見て、阿玉台I b式土器に比定されるものである。

阿玉台I b式土器は、a地点でも勝坂I式土器とともに出土している。

## 2 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺構は、溝2条であった。これはa地点から続くものである。前回報文では2条に有機的関連を認めた上で、一括して「O1M」としていたが、今回は両者を別物として扱うことにする。

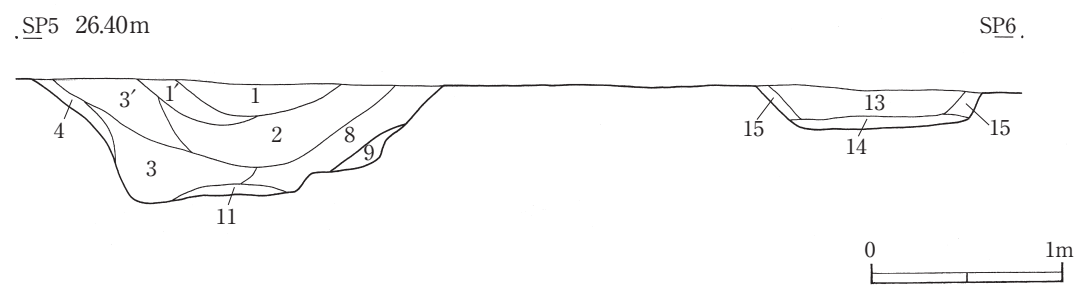
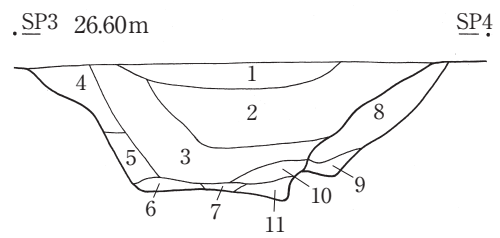
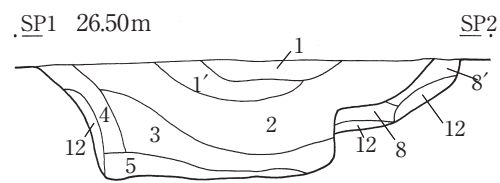
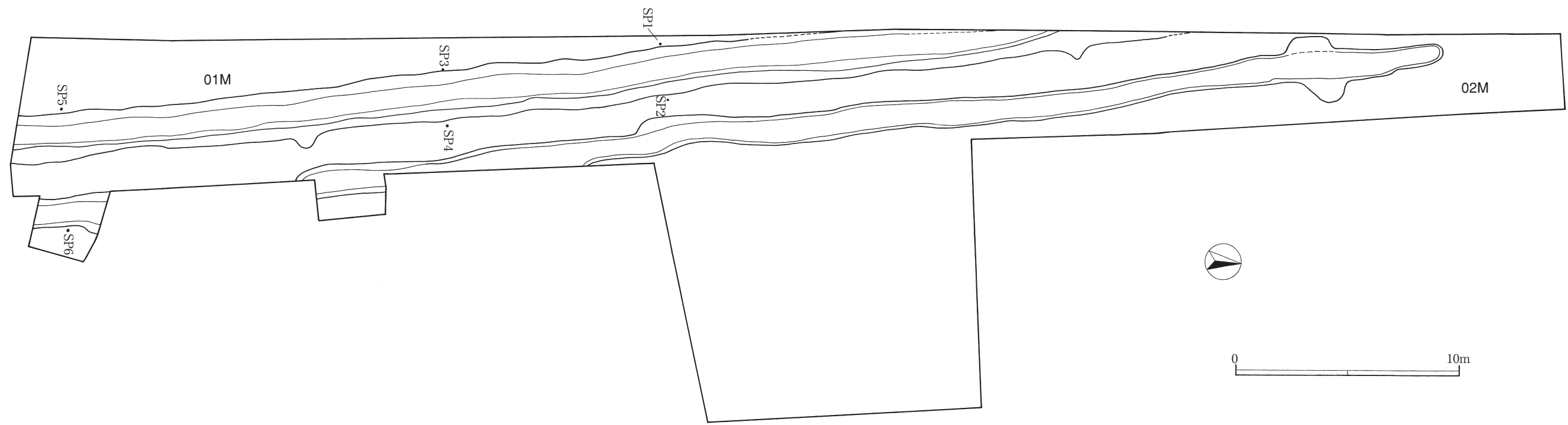
### (1) 溝

#### O1M (第6図)

位置 A区。重複関係 単独。形状 ほぼ直線状を呈する。全体的に幅員・深度ともほぼ一定である。壁・底面 壁は垂直気味に立ち上がる。横断面形は、「逆台形」に近いものとなる。規模 総延長52.30m、最大幅2.30m、深さ0.73m。覆土 最大で12層に分層できた。SP1-2ライン及びSP5-6ラインでの8・9層は古期溝の堆積土である。遺物 覆土から縄文式土器片20点が出土したが、本跡に伴うものではない。備考 本跡は少なくとも一回以上の拡幅が行われている。

#### O2M (第6図)

位置 A区。重複関係 単独であるが、O1Mと平行して掘られている。形状 ほぼ直線状を呈する。全体的に見ると、幅員にややばらつきが認められる。壁・底面 壁は垂直気味に立ち上がる。横断面形は、「逆台形」に近いものとなる。規模 総延長(55.10m)、最大幅1.30m、深さ0.19m。覆土 3層に分層できた。最下層はフラット気味の堆積で、しまりが強い。遺物 覆土から縄文式土器片5点が出土したが、本跡に伴うものではない。



土層説明

- 1 黒褐色土 ローム細粒点々含む。粘性普通、しまり有り。
- 1' 黒褐色土 1層類似。ローム粒ごく少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム細粒点々含む。斑点状にローム粒、黒色土も多い。粘性、しまり普通。
- 3 暗褐色土 2層類似。ローム細粒やや少ない。
- 3' 暗褐色土 3層に類似。ローム粒やや少ない。
- 4 暗褐色土 ローム、黒色土混合。粘性やや欠く。しまり普通。
- 5 暗褐色土 3層類似。ローム粒やや多い。
- 6 褐色土 ロームブロック、黒色土混合。
- 7 暗褐色土 3層類似。やや軟質。
- 8 暗褐色土 3層類似。ローム粒やや多い。
- 8' 暗褐色土 8層類似。ローム粒やや多い。
- 9 暗褐色土 ローム、黒色土混合。粘性有り、しまり普通。
- 10 暗褐色土 3層類似。ローム粒やや多い。
- 11 暗褐色土 3層類似。やや軟質。7よりローム粒多い。
- 12 褐色土 ロームブロック主体。
- 13 暗褐色土 黒色、ローム混合。ローム細粒含む。粘性、しまり普通。
- 14 暗褐色土 粘性、しまり強い。
- 15 暗褐色土 13層類似。黒色土やや多い。

第7図 溝実測図

## 第3章 成果と課題

紙数の都合もあり、ごく簡潔に記すことにしたい。なお、参考文献は割愛させていただく。

### 1. 縄文時代の様相

遺構としては陥穴3基とピット3基が検出された。底部平面形が楕円形を呈するものである。

遺物は前期前半黒浜式土器を中心に、前期末葉～中期初頭の縄文系粗製土器、阿玉台式土器が出土した。黒浜式土器は、新井和之氏編年の第Ⅳ段階、玉井庸弘氏編年の中段階あたりを中心とする。a地点に隣接するエリアからの出土が大半で、居住域の程近くに廃棄されたものと思われる。なお、阿玉台式土器は、ほぼ阿玉台Ⅰb式で占められる。

### 3. 奈良・平安時代の様相

奈良・平安時代に関しては、本遺跡及び周辺の遺跡群を絡めた上で考えてみたい。

まず、遺構としては本遺跡が溝2条、仲ノ台遺跡は竪穴住居跡4軒、土坑2基、大和田新田芝山遺跡では竪穴住居跡1軒、土坑1基が検出されており、これに内野南遺跡の竪穴住居跡1軒を加えたものが総数である。強調するまでもなく、これは、決して多い数ではない。

次に、「萱田編年」を援用しつつ、これら遺構群の年代的位置づけを試みる。

萱田Ⅱ期（8世紀第Ⅱ四半期）・・・内野南1D

萱田Ⅳ期（9世紀第Ⅰ四半期）・・・仲ノ台12住・（14住）

萱田Ⅴ期（9世紀第Ⅱ四半期）・・・大和田新田芝山01住・（13土）

萱田Ⅷ期（10世紀代）・・・・・・・・仲ノ台13住

細別時期不明・・・・・・・・仲ノ台04住・ヲイノ作南1M・2M

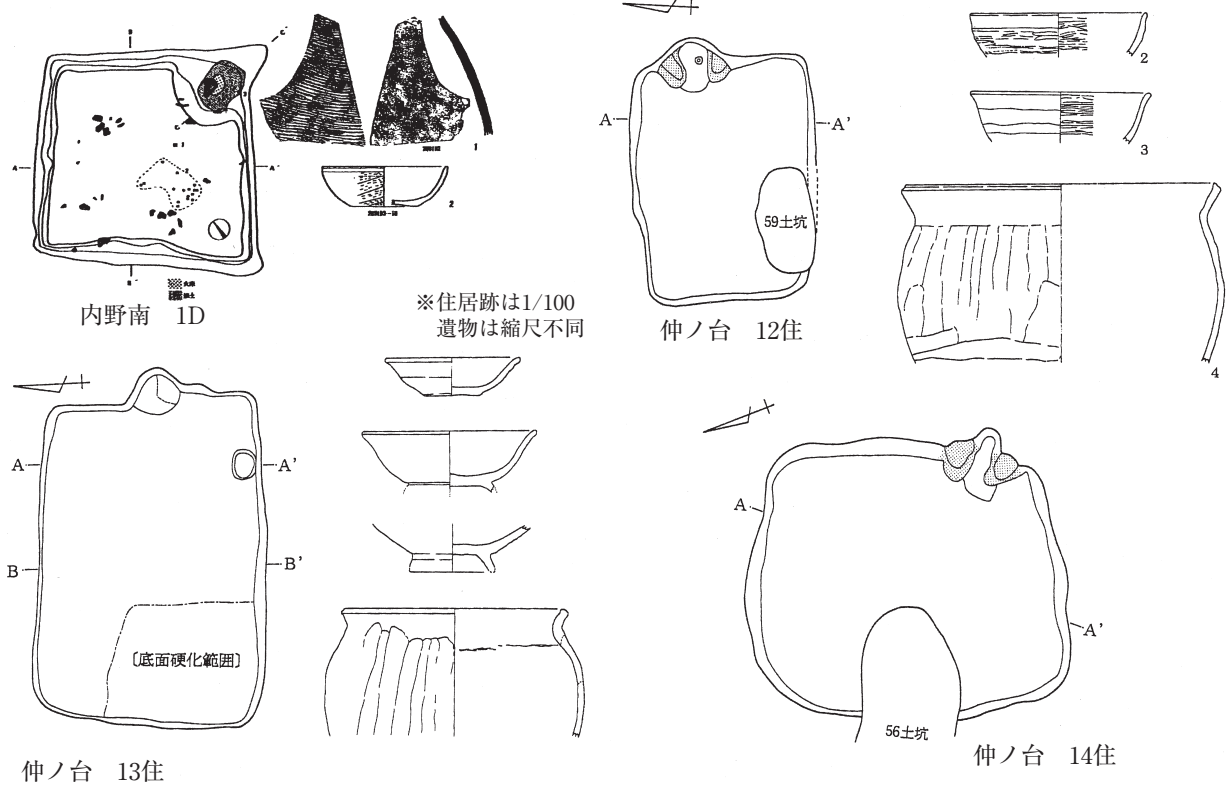
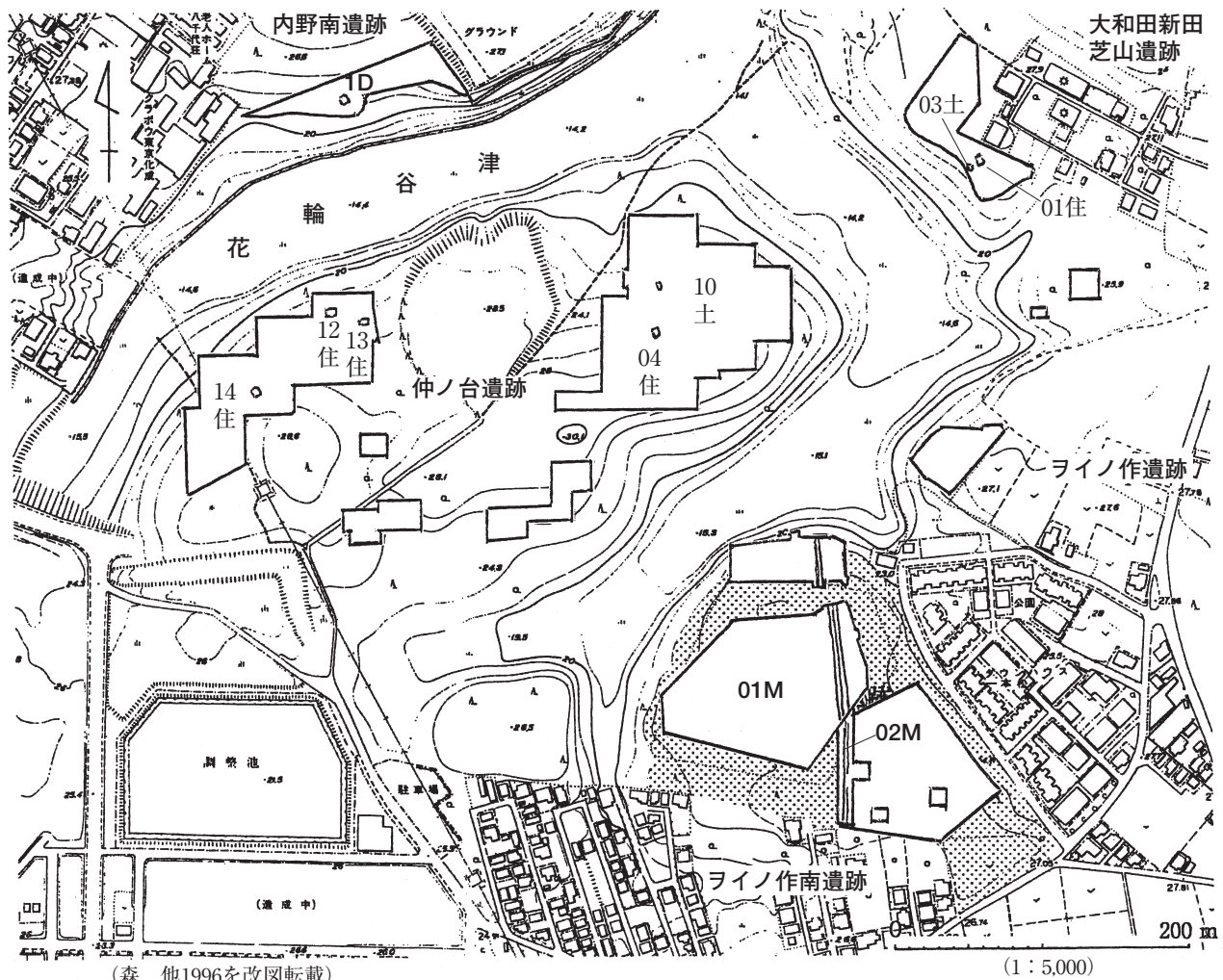
大きくは四時期に分けられるが、一つの遺跡（集落）に同時存在の住居が2軒建っていた例は、萱田編年Ⅳ期の仲ノ台遺跡に不明瞭ながら認められるが、遺跡間での例は見られなかった。

この四時期は、各々が入植の時期として解釈されるものと思われる。換言すれば、当地域には、最低で四回の入植が行われたことになる。それは、ごく小規模であったのか、入植者がそこに根付くことはなかったようである。と、左記のように考えることが穏当ではあるが、それ程に単純であろうか。

ここで目を転じ、第1図を見ていただきたい。本遺跡をのせる尾崎支台と、西隣の吉橋支台には、奈良・平安時代の遺跡の分布が比較的希薄である。それに対し、「萱田遺跡群」をのせる麦丸新田支台や、高本支台では遺跡の分布が多いという、明瞭なコントラストが見られる。各支台の位置関係を見ると、尾崎支台と吉橋支台を両側から挟む形で、高本支台と麦丸新田支台が位置している。果たして、これらの遺跡群が、全て同じような農業を主たる生業とした、いわゆる「農村」であったのであろうか。

一つの考え方として、尾崎支台や吉橋支台がある種の「入会地」的な空間として機能していた可能性を指摘してみたい。すると、先述の入植の問題も、違った見方が可能になる。即ち、仲ノ台遺跡などの住居を、単なる「入植者の住まい」と見なすのではなく、生業のために山に入った人々の「作業小屋」として捉えるのである。この見解を傍証するものとして、住居の構造がある。仲ノ台12住・同13住は長方形プランで、カマドは短辺のコーナー寄りに設置されており、同14住は長方形気味のプランで、カマドはコーナーに設置されている。これらの形状は、八千代市域の平安前期の調査例を瞥見する限り、少数の部類に属する。また、掘り込みが「新时期テフラ」上面から10～15cmと浅い点からも、恒久的な住まいを建てるという要素は、あまり認められない。今回はこの点を指摘し、結びにかえたい。





第8図 奈良・平安時代の遺構・遺物

## 報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよし をいのさくみなみいせきびーちてん はくつちようさほうこくしょ
書名	千葉県八千代市ライノ作南遺跡 b 地点発掘調査報告書
副書名	集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	朝比奈 竹男 森 竜哉 中野修秀
編集機関	八千代市教育委員会
所在地	〒 276 - 0045 千葉県八千代市大和田 138 - 2 TEL.047 (483) 1151
発行年月日	西暦 2008 年 (平成 20 年) 7 月 30 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
をいのさくみなみいせき ライノ作南遺跡 b 地点	やちよしおおわだしんでんあざ 八千代市大和田新田字 をいのさく ライノ作 911 番 1	12221	276	35 度 43 分 29 秒	140 度 4 分 3 秒	20061130 ～ 20061228	986㎡	集合住宅 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ライノ作南遺跡	集落跡	縄文時代  奈良・平安時代	陥穴 3 基  ピット 3 基  溝 2 条	縄文式土器 (黒浜, 阿玉台)	特になし

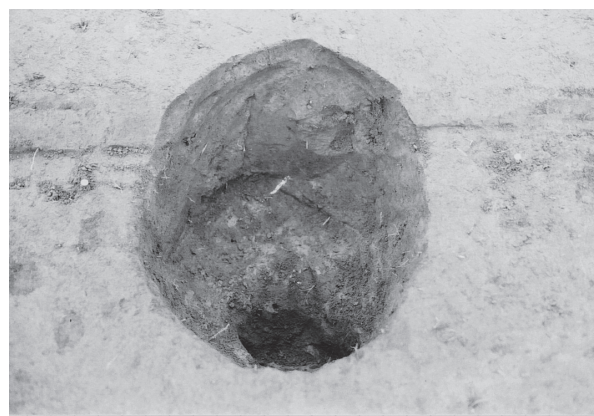
要約	<p>今回の調査成果は、以下のとおりである。</p> <p>縄文時代の陥穴 3 基及びピット 3 基が検出された。細別時期は不明であるが、陥穴に関しては、前期前半黒浜式期の集落よりも前である可能性が高い。</p> <p>出土遺物は縄文式土器がほとんどで、前期前半黒浜式を中心に、前期末葉～中期初頭の縄文系粗製土器及び中期前半阿玉台式までである。</p> <p>奈良・平安時代の溝 2 条が検出された。2 条は平行して掘られており、a 地点で検出されたものと同一の溝である。</p> <p>従来、本遺跡は、縄文前期前半黒浜式期の集落の好例として、学界及び衆目の関心を集めてきた。しかしながら、奈良・平安時代における土地利用も、看過できない問題として浮かび上がってきた訳である。そのことを再認識できた点で、今回の調査結果は有意義なものと言えよう</p>
----	--



图版1



P69 完掘



P70 完掘



P72 断面



P71 完掘



P72 完掘



P73 断面



P74 完掘



P73 完掘





01M・02M 検出状況



01M 遺物出土状態



01M セクション (北側)



01M 遺物出土状態



01M セクション (中央側)



01M 完掘



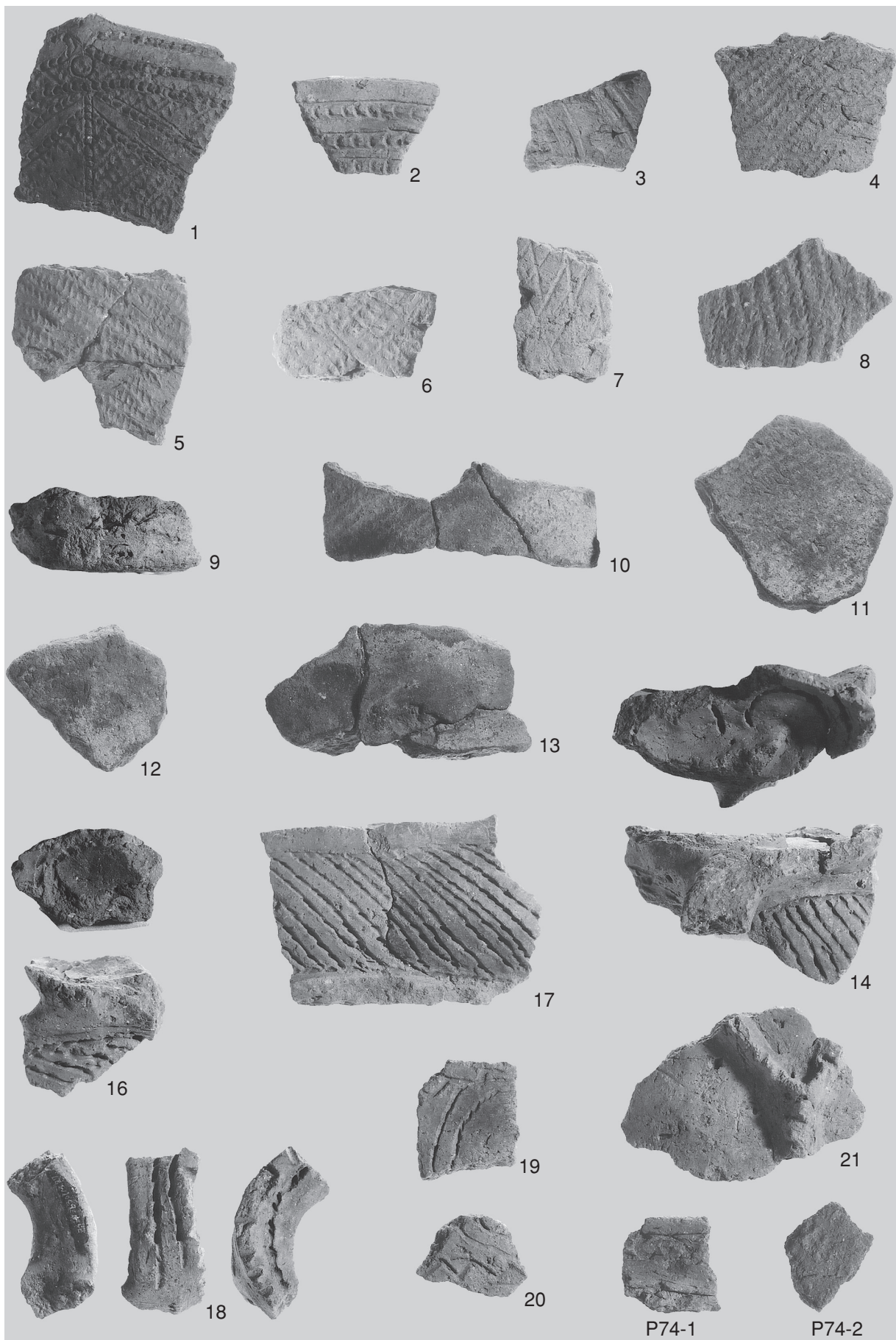
01M セクション (南側)



01M 完掘



図版3 遺構及び調査区出土遺物



---

千葉県八千代市  
ヲイノ作南遺跡b地点発掘調査報告書  
2008 (平成20年)

印刷日 2008年7月23日  
発行日 2008年7月30日  
編集 八千代市教育委員会  
〒276-0045 八千代市大和田138-2  
TEL. 047-483-1151  
発行 オリックス・リアルエステート  
株式会社  
印刷 株式会社 富士印刷

---